

# 兒童の個性及取扱法

文學士 松本孝次郎

個性の意義、個性といふのはどう云ふ事を言ふのが、此世の中には大勢の小供がありましても昔から言つて居る通りに人の心は顔の違ふ様に各々違つて居るといふ事を申しましたが、誠に其通りで人々が銘々僅かづ、違ふ、違つた所の心を持つて居る、個人毎に差異のある心を持つて居る、此個人の差異といふ事をば個性と言ふので、個人的の差異のある性質を名けて之を個性と申します、

同じ家庭に生れた兄弟でありましても其元弟が決して同じ所の性質のものにはならない、それは詰り其小供の生活をして居る間に個性が出来上つて来るからである、誰が見ても此個性が著しく出来る、出来る上かつたと認められるのは何時からであらうかといふと普通の人の眼に分る様になりますのは先づ十歳頃が最著しいのでそれからして青年期になりますれば誰が見ても非常に違つたも

のになつて来るのです、併ながら著しく観察して居る人があつたならば例へば十歳にならない前でありましても家庭に居る間に又は幼稚園に居ります間に將來個性が各々違つて来ます、始めの情態といふものを認めることは決して六つかしい事では無いのであります、此個性といふものはどう云ふ譯で以て出来て来るであらうかと申しますと其一つの原因は遺傳に歸せなければならぬ、もふ生れる時からして其家の血統の爲に遺傳的に或性質が其小供に増して来る、特に神経系統などの欠點といふやうなさう云ふ悪い性質は小供に遺り易いものである、父母の神経系統の弱いといふ事の爲にそこに生れて来る小供の神経系統も極めて弱いことはモウ屢々起つて居ることで唯、小供が生れてから後の育方躰方ばかりで無くして生れる時からして各々の小供に割合に健全な神経系統を持つて来る小供もあるし不完全な神経系統を持つて来る小供もあるので小供の育方に依つて其實が多く現はれるのとそれ程現はれないのと出て来るのであります、兎に角遺傳の爲に出て来る個性

といふものは幾分か宛は必ず誰にてもあると言つて宜いのです、取分け其個性の欠點の著しいのは詰り親がアルコール中毒に罹つて居る家の小供とか或は梅毒性の遺傳を持つて居る人の小供でありますと随分個性の中でも良く無い方の悲むべき個性が多く現はれるやうになつて居る、此遺傳はどう云ふ様な遺傳で以て個性が出来て來やうとも若し育方が餘程満足に行きますならば割合にさう恐る可きものでもありませんね、若し不幸にして其小供の成長してから後に種心配事でも多くあるとか或は餘り愉快で無いやうな境遇に於て生活しなければならなくなつて來ると、その持つて生れた遺傳の性質は兎角現はれやうとする傾きのありますもので、大概十四歳の頃からいたしましてさう云ふやうな遺傳性から來た個性の欠點のある爲に或は憂鬱病に罹りましたり或は精神が幾らか缺けるといふやうな人も随分數多くあることです、又小供の個性といふものは其小供の智力の發達の仕方、以て餘程變つて來ます、詰り其小供の取扱方、どういふやうな教育を受けたか、

どう云ふ様方をされたか、といふ工合で以て餘程個性の様子といふものが違つて來るのです、昔から言ふ通り「上智と下愚とは移らず」と言いますがそれは非常に賢い人と非常に馬鹿な人とは土臺からして幾らか違いがあるので餘程精神上の發達の不完全な者を非常に賢い者にするといふやうな事はナカク出来るものではありませんね、併し普通の子供でありますならば其子供の教育の仕方、以て餘程變へることが出来るので、智力の發達させ方に依つて子供の個性が餘程我々の思ふ様に導くことが出来ることがあります、それから第三に、此個性の變つて來るのは幾らか偶然の事情に依ります、偶然の事情と此處で申しますのは其子供の境遇、どう云ふやうな境遇の中で育つて來るか其境遇の工合で以て餘程變つて來るものであります、それで個性といふものに付ては近頃教育社會に於ては餘程注意をする様になつて參りました、それはどういふ譯で教育社會が餘程注意するやうになつたかと申しますと、教育といふものは一方から考へて見れば今日のやうな學校教育の

仕方(しかた)で以て申(まう)しますならば誰(たれ)でも同(おな)じ様に教(まよ)育(う)して行くのであつて國民(たみん)としては或(ある)範圍(はんぎん)までは大(おほ)抵(たい)一樣(いよう)なる所(ところ)の發達(はつたつ)を望(のぞ)んで居(ゐ)ることは明(あきら)かなることでありませう、國民(たみん)として或(ある)程度(ていど)まではどの人(ひと)でもが一樣(いよう)なる發達(はつたつ)をする様にありたいと望(のぞ)んで居(ゐ)ることはモウ明(あきら)かな事(こと)である、さうして國民(たみん)としては共同(きゆうどう)的(てき)の性質(せいしやう)で、どの人(ひと)にも共通(きゆうこう)なる點(てん)のあることを望(のぞ)んで教(まよ)育(う)をして居(ゐ)るといふ事は勿(もちろん)論(ろん)の事(こと)でありませう、併(ひ)し之(これ)を實際(じつざい)の事實(じじつ)に照(て)らして見(み)るといふと取扱(とくあつか)つて居(ゐ)るところの小供(こども)の個性(こせい)といふものはどうしても是(こゝろ)はあるものである、それであるからしてどの位(くらゐ)まで其(その)小供(こども)の持(も)つて居(ゐ)るところの個性(こせい)といふものを殘(のこ)して置(お)いて宜(よろ)いか、其(その)個性(こせい)をどう云(い)ふ様にしたら宜(よろ)いか、どの位(くらゐ)までは是非(せいひ)共(とも)どの小供(こども)でもをば同一(どうい)の性質(せいしやう)のものに拵(こ)へなければならぬかといふ事は今日(こんにち)社會(しゃかい)の問題(もんだい)となつて居(ゐ)る事(こと)なれど、それでありますから唯(ただ)當(あた)り當(あた)りの學校(がっこう)組織(そくし)になつて居(ゐ)る所(ところ)ばかりで無(な)く幼稚園(えん)の場合(ばい)に於(お)きましても今日(こんにち)に於(お)いて此(こゝろ)小供(こども)の個性(こせい)、小供(こども)に依(よ)つて異(こと)なつて居(ゐ)る性質(せいしやう)をばどう云(い)ふ様にし

て宜(よろ)いかを考(かん)へて來(き)る必要(ひつたう)があるのです、それでも私は先(まづ)最初(さいしょ)に小供(こども)の個性(こせい)の中で發動(はつどう)的(てき)の兒童(じゆう)と受動(じゆう)的(てき)の兒童(じゆう)との個性(こせい)に付(つ)いて御話(ごわ)しやうと思(おも)ひます、  
發動(はつどう)的(てき)の兒童(じゆう)、小供(こども)の個性(こせい)の中に發動(はつどう)的(てき)のと言(い)うて自分(おのれ)から働(はたら)くことを求(もと)むる方(かた)の小供(こども)とそれからさういふ無(な)くして他(た)の者(もの)からして働(はたら)き掛(か)けられると言(い)うべき小供(こども)とあります、此(こゝろ)小供(こども)の個性(こせい)は凡(およ)そ二歳(さい)前後(ぜんご)から現(あら)はれます、それで世間(よ)では度(たび)斯(ごと)う云(い)ふ事(こと)を言(い)ふ人(ひと)がある、小供(こども)を教(まよ)育(う)するのにはどうしても放任(ほうにん)主義(しゆぎ)で無(な)ければいけぬ、小供(こども)の自由(じゆう)を奪(うば)つてはいけぬといふ斯(ごと)う言(い)ひますが、併(ひ)しそれは成程(なるほど)自由(じゆう)を奪(うば)ふといふ事は悪(わる)いに違(ちが)ひないけれ共(とも)、餘(あま)り放任(ほうにん)主義(しゆぎ)をやつて置(お)きますと小供(こども)の持(も)つて居(ゐ)る個性(こせい)が其(その)儘(まま)に發達(はつたつ)して仕舞(しま)ひますからして大層(おほ)層(そう)偏(へん)頗(ら)な人間(にんげん)になります、一方(ひと)に片寄(かたよ)つた人間(にんげん)になりませう、それでありますからして小供(こども)を取扱(とくあつか)ひます人は先(まづ)此(こゝろ)發動(はつどう)的(てき)の兒童(じゆう)の性質(せいしやう)と受動(じゆう)的(てき)の兒童(じゆう)の性質(せいしやう)を充分(ちゆうぶん)に研究(けんきゆう)して置(お)いて、さうして其(その)偏(へん)頗(ら)な餘(あま)り一方(ひと)に片寄(かたよ)つた所(ところ)の小供(こども)の出(で)ない様に氣(き)を

附ける事が大層肝要であると思ひます、それで此發動的兒童はどう云ふ性質を持つて居るかと言ひますと既に小供が啼きます所の啼方で以て其小供の發動的であるかどうかといふ事を見る事が出来る、或小供が自分の悲しい事のありました時に思切つて大きな聲を出してさうして啼き、又怒る時に非常に怒つて腕力に訴へてでも自分の怒の情を表はして怒るといふやうな、さう云ふ小供は發動的の小供にある、自分の感情の表はし方が自分の心の中に残して留めて置くといふので無くして何時でも其通りに外部に表はして仕舞ふ。それが受動的の小供でありますといふとさう行かないのです、自分が悲しくてもナカ／＼外部に表さないで僅かより人に示すことをしない、だから啼方が詰りシク／＼長く泣いて居る、發動的の小供ならば思切つて啼いて仕舞つて直ぐに機嫌が直りますけれども共受動的の小供ではなかく直らない何時までいも啼いて悲んで居るといふ風になつて居る、詰り盛んに啼いた方の小供は機嫌が直り易いのはどう云ふ譯であるかと言ひますと小供の感情の性質

と致しまして餘程激烈に起つて来る激烈な表はれ方を致しまするなればもうそれで其小供の生理上の勢力といふものは盡きて仕舞ふ、悲みといふことを表はして、生理上の勢力が早く盡きて仕舞ふ、その表はれ方が僅かづゝ表はしてそれが悲みを表はす生理上の勢力が長く續くから時間の上にて長い間何時までも残つて居るといふ譯になりません。此發動的の小供はさう云ふやうな工合に自分の感情を大層容易く表はしますからして此小供の心の中にはどう云ふ事を感じて居るかどう云ふ事を思つて居るかといふ事を外部からして觀察することは割合に容易い、それが此類の小供の餘程取扱ひ易い點になつて居る、其小供の本心とは觀察して認めることが容易くなつて居る、此發動的の兒童は餘程活潑でそれで自分みづから絶へず運動をやつて居ります、始終自分では何かやらずに、居らないといふ風で、例へばじつとして繪の本を見て居るとかじつとして自分で或考事をやつて見るといふやうなさう云ふ工風、さう云ふ類の事をする

爲に自分で長く落附いて居ることは少いのです、そこに又個性といふもの、變つたところが餘程表はれて来て居る、詰り注意といふ事が發動的兒童に於ては割合に長く繼續をしないといふ事が起つて來るのです、勿論此發動的の兒童は注意が長く繼續しないと斯う申しますけれど、一つ事を長くやつて居るといふことは嫌ふといふ方です、だから變つた事になれば幾らでも精力を出してやつて行くので、世間に言うて居る大層飽き易い小供であるといふのは此發動的の兒童の事でありませう、若し斯う云ふ様な性質を其儘に打遣つて置きますならば遂には發動的の兒童といふ者は何事も落附いて深く研究するといふ方の性質は無くなつて仕舞つて俗に言ふ新しい事を何でも好む、目先の變つた事を喜ぶ性質の小供になつて仕舞つた、世間で能く萬屋といふやうな風になつても少し宛やりに掛けて見る、やり掛けて見るけれど一つ深く押通して研究するといふ事が無いといふやうな性質の人になつて仕舞ふ、大きくなつてからして矢張

り目的を立てると言うても極まつた一つの目的をチャンと立つてそれに向つて進むといふ事が出来なくなつてさうして何でも始終目的を變へて居るやうな人になつて仕舞ふ、即ち注意の流動、といふ事が此小供に起つて來る、幼稚園に於きまして小供が唱歌などをうたつて居るところを見ますと身体を動かして歌ふ、自分の首は隣の友達の方を始終見て居る、或は自分の手や足で隣の小供に觸つて居るといふやうな風の小供は大抵此注意の流動して居る小供であります、保姆諸君が度々訴へられるところの困る小供は此此注意の流動といふ事がある小供を訴へられることが多いのですが是は詰り其發動的の兒童といふ者が其個性の欠點を幼稚園に於て表はした一つの場合であります。(まだある)

